

氏名	引 地 充
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	理 学
学位授与番号	博 甲 第 1209 号
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	INCREASE OF KAINATE RECEPTOR mRNA IN THE HIPPOCAMPAL CA3 OF AMYGDALA-KINDLED RATS DETECTED BY <u>IN SITU</u> HYBRIDIZATION (扁桃核キンドリングラット脳の海馬CA3領域におけるカイニン酸受容体メッセンジャーRNAの増加; <u>in situ</u> hybridization法による解析)
論文審査委員	教授 森 昭胤 教授 庄盛 敏廉 教授 徳永 勲

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

扁桃核キンドリングラット脳の海馬, 扁桃核, 梨状様皮質における興奮性アミノ酸受容体の変化について, 4種の興奮性アミノ酸受容体サブタイプ(NMDA受容体, AMPA受容体, カイニン酸受容体, メタボトロピック受容体)の各サブユニットのメッセンジャーRNAに相補的なオリゴヌレオチドプローブを用いた*in situ* hybridization法で検索した。最終発作より28日後の定常状態において, 両側海馬CA3領域のカイニン酸受容体メッセンジャーRNAが対象群に比して有意に増加していた。他の測定部位での変化は認めなかった。また他の受容体メッセンジャーRNAの有意な変化はいずれの測定部位でも認められなかった。海馬におけるカイニン酸受容体遺伝子転写の持続的亢進は, この受容体を介した海馬神経細胞の興奮性亢進を反映したものと推察され, キンドリングのけいれん準備状態の維持に関わる変化であると考えられた。

なお, 本論文は共著論文であり, 共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本論文は扁桃核キンドリング脳における興奮性アミノ酸受容体のメッセンジャーRNAの変化を研究したものであるが、海馬C₃領域にカイニン酸受容体メッセンジャーRNAが増加するという、キンドリングのけんれん準備性を解明するために重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。